

ANAホールディングス株式会社 説明会

2022年3月期 第3四半期決算

2022年2月1日

取締役専務執行役員
福澤 一郎



- ◎ 本日はお忙しい中、2022年3月期 第3四半期 決算説明の電話会議にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。
- ◎ 最初に、スライドの3ページをご覧ください。

目次

2021年度 第3四半期決算

1. 業績ハイライト	P. 3	4. ノンエア事業 航空事業以外のセグメント	P. 24
2. 連結決算概要		5. 主な取り組み コスト削減策の進捗 転換社債	P. 25 P. 26
経営成績	P. 4		
財政状態	P. 5		
キャッシュフロー	P. 6-7		
セグメント別実績	P. 8		
3. 航空事業			
収入・費用	P. 9		
営業利益 増減要因	P. 10-11		
ANA国際旅客	P. 13		
ANA国内旅客	P. 14		
ANA国際貨物	P. 15-16		
ANA国内貨物	P. 17		
LCC	P. 18		
事業別の概況	P. 19-20		
コロナ前との対比	P. 21		
事業別の需要動向	P. 22		
航空機数	P. 23		

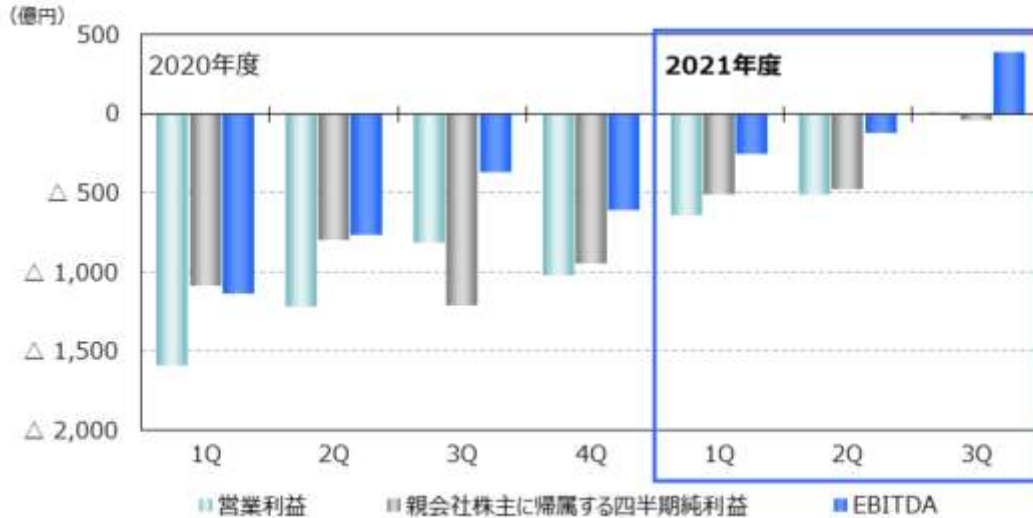
当第3四半期と前年度各四半期の業績比較

【2021年度 第3四半期 累計 (連結)】

- 営業利益 : $\Delta 1,158$ 億円 (前年同期比 + 2,465億円)
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : $\Delta 1,028$ 億円 (同 + 2,067億円)
- EBITDA : 19億円 (同 + 2,295億円)

【第3四半期 (10-12月期) (連結)】

- 営業利益 : 1億円
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : $\Delta 40$ 億円
- EBITDA : 394億円



©ANAHD2022

3

◎ 業績ハイライトです。

◎ 第3四半期累計の実績は、

営業損失が1,158億円、四半期純損失が1,028億円、EBITDAが19億円となりました。
新型コロナウイルスの影響は続いています、
いずれも前年と比べて2,000億円以上の改善となりました。

◎ 一方、10月からは、国内線における旅客需要が急速に回復したほか、
国際貨物も売上高を大幅に伸ばしました。

その結果、第3四半期単独の実績として、営業利益は1億円となり、
8四半期ぶりに、黒字に転じました。

EBITDAも394億円となるなど、業績が着実に改善しました。

◎ 4ページをご覧ください。

経営成績

(億円)	FY2020 第3四半期累計	FY2021 第3四半期累計	前年差	FY2021 第3四半期	前年差
売上高	5,276	7,380	+ 2,104	3,069	+ 711
営業費用	8,900	8,538	△ 361	3,067	△ 105
営業利益	△ 3,624	△ 1,158	+ 2,465	1	+ 816
営業利益率 (%)	-	-	-	0.1	-
営業外損益	116	△ 25	△ 141	△ 30	△ 23
経常利益	△ 3,507	△ 1,183	+ 2,324	△ 28	+ 792
特別損益	△ 773	△ 62	+ 710	△ 4	+ 776
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 3,095	△ 1,028	+ 2,067	△ 40	+ 1,170
四半期純利益	△ 3,120	△ 1,017	+ 2,103	△ 39	+ 1,169
その他包括利益	247	80	△ 166	20	△ 88
包括利益	△ 2,873	△ 936	+ 1,936	△ 18	+ 1,080

©ANAHD2022

4

- ◎ 連結決算の概要です。
- ◎ 売上高は、前年同期から2,104億円、39.9パーセント増加の7,380億円となりました。
- ◎ 営業費用は、前年から361億円、4.1パーセント減少の8,538億円となりました。
生産量を回復させながら、固定費を中心としたコストマネジメントに取り組んだことにより、上期に続いて、第3四半期も、費用が前年と比べて減少しました。
- ◎ これらの結果、営業損失は1,158億円、経常損失は1,183億円、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,028億円となりました。
- ◎ 5ページをご覧ください。

財政状態

(億円)	FY2020 期末 *4	FY2021 第3四半期末	前年度 期末差 *5
総資産	32,078 (32,452)	32,397	+ 318 (△ 55)
自己資本	10,072 (8,925)	7,978	△ 2,094 (△ 947)
自己資本比率(%)	31.4 (27.5)	24.6	△ 6.8pt (△ 2.9pt)
有利子負債残高	16,554	17,712	+ 1,157
D/Eレシオ (倍)	1.6 (1.9)	2.2	+ 0.6 (+ 0.4)
手元流動性資金 *1	9,657	9,715	+ 58
純有利子負債残高 *2	6,897	7,997	+ 1,099
ネットD/Eレシオ (倍) *3	0.7 (0.8)	1.0	+ 0.3 (+ 0.2)

*1 手元流動性資金 = 現金及び預金 + 有価証券

*2 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - 手元流動性

*3 ネットD/Eレシオ = 純有利子負債 ÷ 自己資本

*4 カッコ内は収益認識基準を適用後のFY2021期首数値

*5 カッコ内は収益認識基準を適用後のFY2021期首数値との差

- ◎ 財政状態です。
- ◎ 総資産は、前年度期末より、318億円増加の、3兆2,397億円となりました。
- ◎ 自己資本は、7,978億円、自己資本比率は、24.6パーセントとなりました。
- ◎ 有利子負債は、1,500億円の転換社債を発行したことなどにより、前年度期末から、1,157億円増加の、1兆7,712億円となり、デット・エクイティ・レシオは、2.2倍となりました。
なお、純有利子負債をベースとした、ネットデット・エクイティ・レシオは、1.0倍となります。
- ◎ 第3四半期の期末時点における手元流動性資金は、9,715億円となりました。
- ◎ 6ページをご覧ください。

キャッシュフロー

(億円)	FY2020 第3四半期累計	FY2021 第3四半期累計	前年差
営業キャッシュフロー	△ 2,009	△ 406	+ 1,602
投資キャッシュフロー	△ 5,213	1,109	+ 6,323
財務キャッシュフロー	11,105	1,150	△ 9,955
現金及び現金同等物の増減額	3,879	1,850	△ 2,028
現金及び現金同等物の期首残高	1,359	3,703	} + 1,850
現金及び現金同等物の期末残高	5,236	5,553	
減価償却費*1	1,348	1,177	△ 170
設備投資額（固定資産のみ）	1,320	1,173	△ 147
実質フリーキャッシュフロー （3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く）	△ 3,045	△ 1,090	+ 1,955
EBITDA（営業利益 + 減価償却費*1）	△ 2,275	19	+ 2,295
EBITDAマージン（%）	-	0.3	-

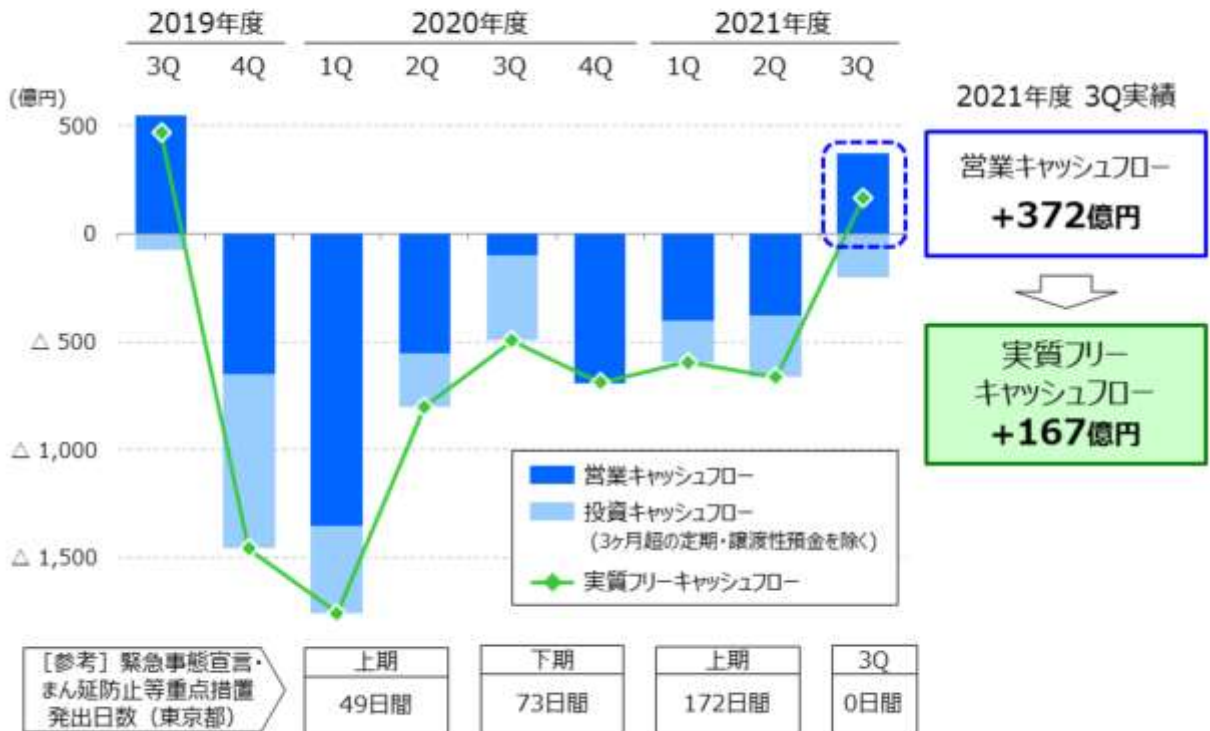
© ANAHD2022

*1 2021年度実績には、休止機材費に計上した減価償却費を含む

6

- ◎ キャッシュフローです。
- ◎ 営業キャッシュフローは、406億円の支出となりました。
- ◎ 投資キャッシュフローは、航空機を受領や売却を進めたことなどにより、1,109億円の収入となりました。
- ◎ 財務キャッシュフローは、転換社債の発行による資金調達を行ったことなどにより、1,150億円の収入となりました。
- ◎ 3ヶ月超の定期・譲渡性預金の資金移動を除いた投資キャッシュフローから算出する、実質フリーキャッシュフローは、1,090億円の支出となりました。
- ◎ 7ページをご覧ください。

【参考】キャッシュフローの推移



©ANAHD2022

7

- ◎ 本スライドは、キャッシュフローの推移です。
- ◎ 当第3四半期の営業キャッシュフローは、372億円の収入となり、8四半期ぶりにプラスに転じました。2019年度第4四半期から、資金の流出が続いていましたが、コスト削減の徹底や貨物の増収に加えて、国内線の旅客需要が回復したことにより、キャッシュフローが大幅に改善しました。
- ◎ また、投資キャッシュフローについても、設備投資の抑制に取り組んできた結果、実質フリーキャッシュフローは、167億円の収入となり、営業キャッシュフローと同様に、コロナ禍で初めてプラスに転じました。
- ◎ 8ページをご覧ください。

セグメント別実績

(億円)		FY2020 第3四半期累計	FY2021 第3四半期累計	前年差	FY2021 第3四半期	前年差
売上高	航空事業	4,320	6,384	+ 2,063	2,681	+ 728
	航空関連事業	1,667	1,498	△ 169	521	+ 52
	旅行事業	361	345	△ 15	149	△ 73
	商社事業	610	614	+ 4	230	+ 3
	その他	274	276	+ 2	101	+ 12
	調整額	△ 1,958	△ 1,739	+ 218	△ 616	△ 11
	合計(連結)	5,276	7,380	+ 2,104	3,069	+ 711
営業利益	航空事業	△ 3,480	△ 1,129	+ 2,350	8	+ 710
	航空関連事業	20	26	+ 6	9	+ 76
	旅行事業	△ 47	△ 2	+ 44	△ 1	+ 6
	商社事業	△ 30	6	+ 37	6	+ 8
	その他	5	11	+ 6	4	+ 8
	調整額	△ 91	△ 70	+ 20	△ 26	+ 6
	合計(連結)	△ 3,624	△ 1,158	+ 2,465	1	+ 816

©ANAHD2022

8

- ◎ セグメント別の実績です。
- ◎ 第3四半期累計の実績として、全てのセグメントで増益となりました。
- ◎ 航空関連事業では、グループ外からの受託収入が、緩やかに回復する中、業務の内製化やグループ外出向の拡大など、費用削減に努めた結果、前年から増益となりました。
- ◎ 旅行事業では、GoToトラベルキャンペーンが実施された前年と比べて、減収となりましたが、人件費などの削減により、営業損失の規模は前年から縮小しました。
- ◎ 商社事業では、電子事業が好調に推移したほか、10月以降、リテール事業の売上高が回復したことで、上期に引き続き、営業黒字を確保しました。
- ◎ 続きまして、航空事業の詳細についてご説明します。
10ページをご覧ください。

収入・費用

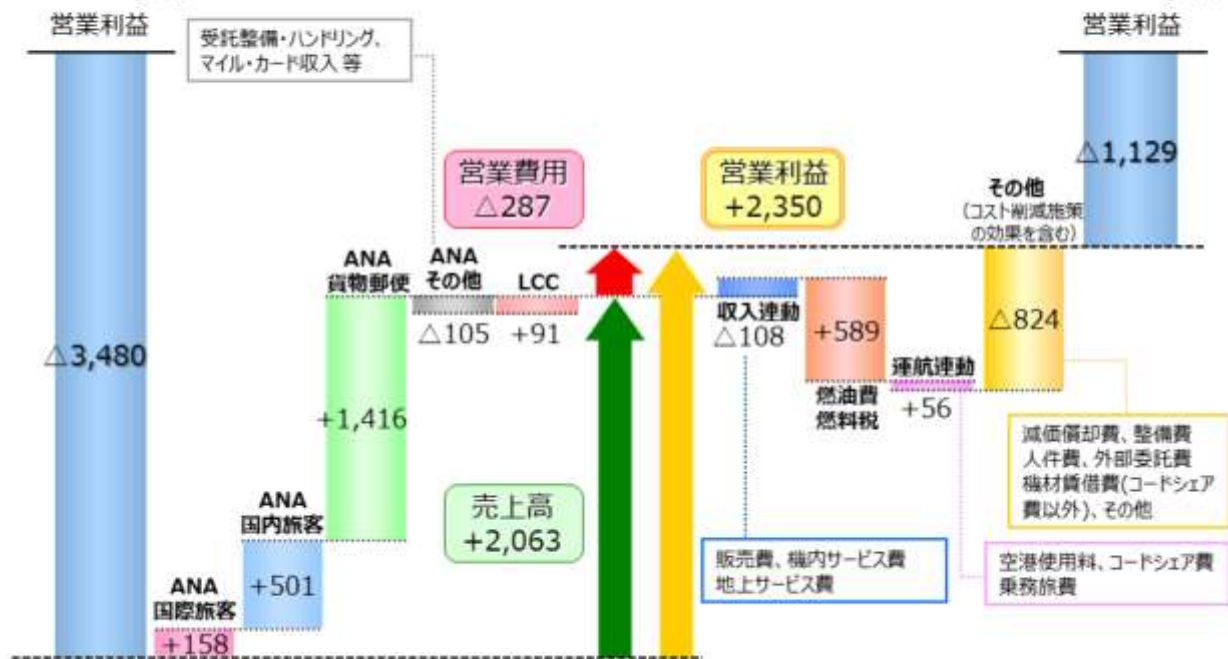
		FY2020 第3四半期累計	FY2021 第3四半期累計	前年差	FY2021 第3四半期	前年差
(億円)						
売上高	ANA					
	国際旅客	323	482	+ 158	178	+ 51
	国内旅客	1,563	2,065	+ 501	946	+ 172
	貨物郵便	1,207	2,624	+ 1,416	1,083	+ 491
	その他	1,071	966	△ 105	358	△ 31
LCC	153	245	+ 91	114	+ 45	
合計	4,320	6,384	+ 2,063	2,681	+ 728	
営業費用	燃油費・燃料税	758	1,348	+ 589	545	+ 200
	空港使用料	332	310	△ 22	116	△ 28
	航空機材賃借費	801	849	+ 47	286	+ 12
	減価償却費	1,293	1,051	△ 241	350	△ 77
	整備部品・外注費	807	597	△ 210	201	△ 5
	人件費	1,249	1,147	△ 102	385	△ 35
	販売費	312	199	△ 113	79	△ 39
	外部委託費	1,381	1,253	△ 127	439	+ 3
	その他	863	756	△ 106	268	△ 11
	合計	7,800	7,513	△ 287	2,673	+ 17
営業利益	△ 3,480	△ 1,129	+ 2,350	8	+ 710	
EBITDA (営業利益+減価償却費)	△ 2,187	△ 77	+ 2,109	358	+ 632	
EBITDAマージン (%)	-	-	-	13.4	-	

営業利益 増減要因 (第3四半期累計)

(億円)

FY2020 3Q累計

FY2021 3Q累計

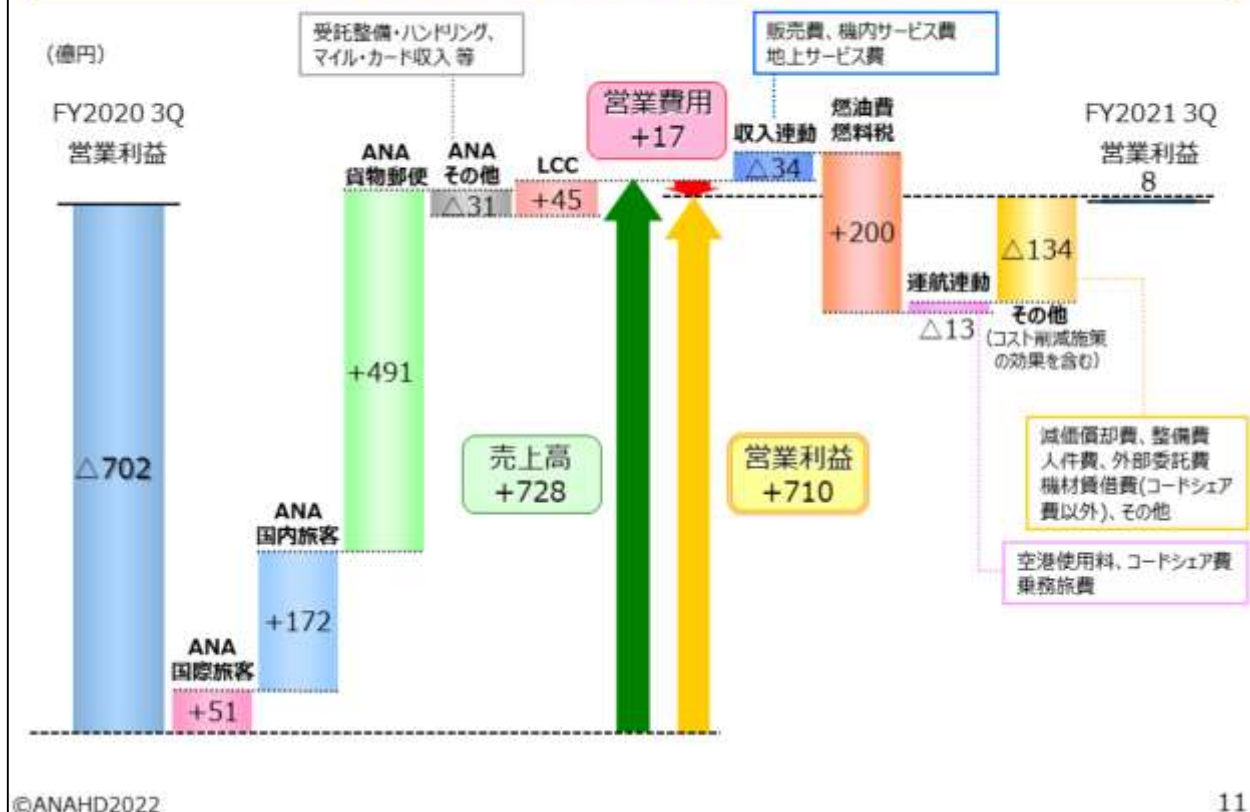


©ANAHD2022

10

- ◎ 航空事業の営業利益について、第3四半期累計の実績を、前年と比較したものです。
- ◎ 売上高は、国際貨物が増収を牽引したほか、ANA国内旅客も大幅に改善して全体で2,063億円の増加となりました。
- ◎ 営業費用は、287億円の減少となりました。
生産量の回復に伴い、燃油費や運航連動費用は増加しましたが、事業構造改革の効果が現れたことで、機材ならびに人財に関わる費用が、大幅に減少しました。
- ◎ 以上の結果、営業損失は、1,129億円となりました。
- ◎ 11ページをご覧ください。

【参考】営業利益 増減要因 (第3四半期)



- ◎ 本スライドは、第3四半期単独の実績を、前年と比較したものです。
- ◎ 売上高は、ANA国内旅客や国際貨物で、需要を積極的に取り込んだことで、全体で728億円の増加となりました。
- ◎ 一方、営業費用について、燃油費は市況上昇による影響を受けましたが、運航連動費用や固定費を削減し、全体で17億円の増加に留めました。
- ◎ 第3四半期において、ANA国内旅客では、生産量を前年比で4パーセント増加した中、収入が22パーセント向上しました。国際貨物でも、生産量の28パーセント増に対して、収入が95パーセント増となるなど、機動的かつ柔軟に生産量を調整した効果が現れました。事業の収益性が前年から大幅に改善した結果、航空事業の営業利益は8億円となり、四半期ベースで黒字に転換しました。
- ◎ 19ページをご覧ください。

Intentionally Left Blank

ANA国際旅客

	FY2020 第3四半期累計	FY2021 第3四半期累計	前年比(%)	FY2021 第3四半期	前年比(%)
座席キロ(百万)	9,809	14,962	+ 52.5	5,528	+ 26.1
旅客キロ(百万)*1	2,140	3,746	+ 75.0	1,498	+ 80.9
旅客数(千人)*1	320	549	+ 71.2	221	+ 74.5
座席利用率(%) *1	21.8	25.0	+ 3.2pt*2	27.1	+ 8.2pt*2
旅客収入(億円)*1	323	482	+ 49.1	178	+ 40.2
ユニットレベニュー(円)*1 (旅客収入/座席キロ)	3.3	3.2	△ 2.2	3.2	+ 11.1
イールド(円)*1 (旅客収入/旅客キロ)	15.1	12.9	△ 14.8	11.9	△ 22.5
単価(円)*1 (旅客収入/旅客数)	100,832	87,821	△ 12.9	80,482	△ 19.7

*1 収益認識に関する会計基準の適用により、2021年度実績は特典航空券利用旅客を含む

*2 座席利用率のみ前年差

ANA国内旅客

	FY2020 第3四半期累計	FY2021 第3四半期累計	前年比(%)	FY2021 第3四半期	前年比(%)
座席キロ(百万)	20,812	24,539	+ 17.9	9,379	+ 4.0
旅客キロ(百万)*1	9,097	12,090	+ 32.9	5,455	+ 13.3
旅客数(千人)*1	9,906	13,198	+ 33.2	6,057	+ 15.7
座席利用率(%) *1	43.7	49.3	+ 5.6pt*2	58.2	+ 4.8pt*2
旅客収入(億円)*1	1,563	2,065	+ 32.1	946	+ 22.3
ユニットレベニュー(円)*1 (旅客収入/座席キロ)	7.5	8.4	+ 12.0	10.1	+ 17.6
イールド(円)*1 (旅客収入/旅客キロ)	17.2	17.1	△ 0.6	17.3	+ 7.9
単価(円)*1 (旅客収入/旅客数)	15,784	15,648	△ 0.9	15,622	+ 5.6

*1 収益認識に関する会計基準の適用により、2021年度実績は特典航空券利用旅客を含む

*2 座席利用率のみ前年差

ANA国際貨物（ベリー+フレイター）

	FY2020 第3四半期累計	FY2021 第3四半期累計	前年比(%)	FY2021 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	2,996	5,233	+ 74.6	1,845	+ 28.4
有償貨物トンキロ（百万）	2,066	3,929	+ 90.2	1,412	+ 38.7
貨物輸送重量（千トン）	429	743	+ 73.0	267	+ 32.3
貨物重量利用率（%）	68.9	75.1	+ 6.1pt*1	76.6	+ 5.7pt*1
貨物収入（億円）	1,016	2,377	+ 134.0	993	+ 95.6
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	33.9	45.4	+ 34.0	53.9	+ 52.3
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	49.2	60.5	+ 23.0	70.3	+ 41.0
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	236	320	+ 35.3	372	+ 47.8

*1 貨物重量利用率のみ前年差

ANA国際貨物（フレイターのみ）

本表のデータは、P.15記載実績の内数

	FY2020 第3四半期累計	FY2021 第3四半期累計	前年比(%)	FY2021 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	1,290	1,780	+ 37.9	623	+ 20.7
有償貨物トンキロ（百万）	876	1,257	+ 43.5	446	+ 23.0
貨物輸送重量（千トン）	230	317	+ 37.6	112	+ 16.5
貨物重量利用率（%）	67.9	70.6	+ 2.8pt*1	71.7	+ 1.3pt*1
貨物収入（億円）	447	871	+ 94.6	363	+ 85.8
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	34.7	49.0	+ 41.1	58.3	+ 53.9
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	51.1	69.3	+ 35.6	81.4	+ 51.0
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	194	275	+ 41.4	323	+ 59.5

*1 貨物重量利用率のみ前年差

ANA国内貨物

	FY2020 第3四半期累計	FY2021 第3四半期累計	前年比(%)	FY2021 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ (百万)	541	701	+ 29.5	263	+ 6.7
有償貨物トンキロ (百万)	179	213	+ 19.1	76	+ 1.8
貨物輸送重量 (千トン)	162	189	+ 16.6	69	△ 0.2
貨物重量利用率 (%)	33.1	30.5	△ 2.7pt*1	29.1	△ 1.4pt*1
貨物収入 (億円)	153	187	+ 22.5	66	△ 0.1
ユニットレベニュー (円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	28.3	26.8	△ 5.4	25.4	△ 6.4
イールド (円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	85.5	87.9	+ 2.8	87.0	△ 1.9
重量単価 (円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	94	99	+ 5.1	96	+ 0.1

*1 貨物重量利用率のみ前年差

LCC (Peach Aviation)

	FY2020 第3四半期累計	FY2021 第3四半期累計	前年比(%)	FY2021 第3四半期	前年比(%)
座席キロ (百万)	3,769	5,556	+ 47.4	2,301	+ 37.1
旅客キロ (百万)	1,822	3,336	+ 83.0	1,558	+ 72.9
旅客数 (千人)	1,583	2,922	+ 84.6	1,367	+ 78.6
座席利用率 (%)	48.4	60.0	+ 11.7pt*1	67.7	+ 14.0pt*1
売上高 (億円) *2	153	245	+ 59.8	114	+ 66.1
ユニットレベニュー (円) (売上高/座席キロ)	4.1	4.4	+ 8.4	5.0	+ 21.1
イールド (円) (売上高/旅客キロ)	8.4	7.4	△ 12.7	7.4	△ 3.9
単価 (円) (売上高/旅客数)	9,705	8,401	△ 13.4	8,377	△ 7.0

*1 座席利用率のみ前年差

*2 売上高に付帯収入を含む

事業別の動向（ANA国内旅客・Peach）

1. ANA国内旅客



1) 売上高：急速に回復した旅客需要を確実に取り込み
[’20 Q3] 773億円 → [’21 Q3] 946億円(約1.2倍)

2) ユニットレベニュー：イールドマネジメントの徹底
[’20 Q3] 8.6円 → [’21 Q3] 10.1円

収益性を重視しながらトップラインを伸張

2. Peach



1) 売上高：ANAから運航便を移管、レジャー需要を取り込み
[’20 Q3] 68億円 → [’21 Q3] 114億円(約1.7倍)

2) ユニットレベニュー：販促強化による利用率の向上
[’20 Q3] 4.1円 → [’21 Q3] 5.0円

ANAと連携した国内線の生産量拡大で
売上高を大幅に伸張

© ANAHD2022

※収益認識に関する会計基準の適用により、2021年度の実績には特典航空券の利用旅客を含む

19

◎ 事業別の動向について、ご説明します。

◎ スライドの1番は、ANA国内旅客の実績推移です。

10月以降、急速に回復した旅客需要を確実に取り込んだことにより、当第3四半期の売上高は、946億円となり、GoToトラベルキャンペーンが実施された前年に比べても、約1.2倍に増加しました。また、イールドマネジメントを徹底したことで、ユニットレベニューも改善しており、収益性を重視した機動的な生産量調整を続けながら、トップラインを伸ばしました。

◎ 2番は、Peachについてです。

10月末から、ANA運航便の一部を移管するなど、Peachの生産量をさらに拡大しました。行動制限の緩和に伴い活発化したレジャー需要を、積極的に取り込んだ結果、当第3四半期の売上高は、114億円となり、前年同期の約1.7倍となりました。

◎ 続きまして、20ページをご覧ください。

事業別の動向 (ANA国際貨物)

3. ANA国際貨物

1) 生産量



2) 売上高・単価



©ANAHD2022

20

◎ 3番は、ANA国際貨物の動向についてです。

◎ 上段は、生産量の推移です。

大型フレイター機材の就航都市を10月以降さらに拡大し、機材稼働率を高めるとともに、旅客機による貨物便を、需要が旺盛な北米路線を中心に積極的に運航するなど、年末の需要ピーク期に合わせて、生産量を最大化しました。

◎ 下段は、売上高と単価の推移です。

当第3四半期の売上高は、前年同期の約2倍となる993億円となり、四半期ベースの過去最高を大幅に更新しました。

半導体や自動車関連部品など、主力商材が堅調に推移した中、

高単価貨物の取り込みを強化した結果、

単価は、前年同期と比べて約1.5倍と、極めて高い水準で推移しました。

◎ 22ページをご覧ください。

航空事業 コロナ前との対比

FY2021 第3四半期実績

2019年度比(%)*1	ANA国際旅客		ANA国内旅客		LCC*2	
	FY2021 第3四半期累計	FY2021 第3四半期	FY2021 第3四半期累計	FY2021 第3四半期	FY2021 第3四半期累計	FY2021 第3四半期
座席キロ	△ 71.6	△ 69.0	△ 45.4	△ 36.2	△ 35.4	△ 15.9
旅客キロ *3	△ 90.8	△ 89.1	△ 62.2	△ 48.8	△ 54.5	△ 30.6
旅客数 *3	△ 92.9	△ 91.3	△ 62.0	△ 47.9	△ 49.4	△ 23.2

2019年度比(%)*1	ANA国際貨物		ANA国内貨物	
	FY2021 第3四半期累計	FY2021 第3四半期	FY2021 第3四半期累計	FY2021 第3四半期
有効貨物トンキロ	△ 5.7	△ 5.6	△ 47.1	△ 38.6
有償貨物トンキロ	+ 22.0	+ 24.1	△ 28.5	△ 28.1
貨物輸送重量	+ 10.6	+ 11.7	△ 34.4	△ 33.0

*1 コロナ前(2019年4月～12月実績)との比較

*2 2019年度実績はPeach Aviationとバニエアの合計

*3 収益認識に関する会計基準の適用により、2021年度実績は特典航空券利用旅客を含む

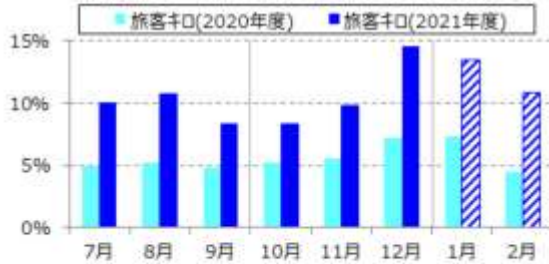
【参考】事業別の需要動向（コロナ前との対比）

グラフは全てコロナ前との対比

① 7月～12月実績：2019年7月～12月（2019年度 第2～3四半期）との比較
② 1月～2月見通し：2019年1月～2月（2018年度 第4四半期）との比較

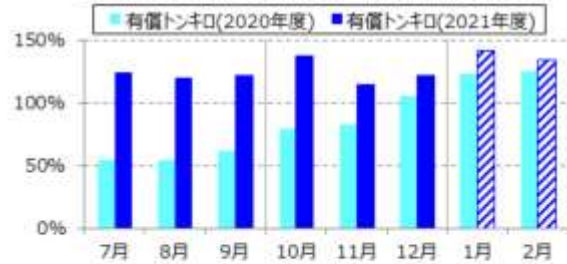
1. ANA国際旅客

三国間需要、年末年始の里帰り需要を中心に取り込み



3. ANA国際貨物

主力商材が堅調、コロナ前を上回る好調な需要が継続



2. ANA国内旅客

感染者数の減少に伴い、10月から需要が急速に回復



4. Peach国内線

生産量拡大で需要を獲得、旅客キロはコロナ前を超過



©ANAHD2022

*1 収益認識に関する会計基準の適用により、2021年度の実績・見通しには特典航空券の利用旅客を含む

22

- ◎ 事業別の月別実績と、1月ならびに2月の見通しです。
- ◎ ANA国際旅客は、水際対策の強化が2月末まで延長されたことなどから、1月以降の需要動向は、概ね横ばいで推移しています。入国規制の緩和に向けた動きに合わせて、機動的な対応を図っていきます。
- ◎ ANA国内旅客およびPeach国内線については、オミクロン株の感染拡大による影響で、とりわけ2月の需要は低い水準で推移していますが、今後の動向を注視しながら、適切に生産量をコントロールしていきます。
- ◎ ANA国際貨物は、半導体や自動車関連などの主力商材を中心に、第4四半期も、堅調な荷動きが続く見込みです。
- ◎ 25ページをご覧ください。

航空機数

	合計					退役済み機材*1を除く		
	FY2020 期末	FY2021 第3四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数	FY2020 期末	FY2021 第3四半期末	前年度 期末差
*1 退役済み・売却待ちまたはリース返却待ちの機材								
Airbus A380-800	2	3	+1	3	-	2	3	+1
Boeing 777-300/-300ER	30	20	△10	11	9	20	20	-
Boeing 777-200/-200ER	14	14	-	12	2	12	12	-
Boeing 777-F	2	2	-	2	-	2	2	-
Boeing 787-10	2	2	-	2	-	2	2	-
Boeing 787-9	36	39	+3	33	6	36	39	+3
Boeing 787-8	36	36	-	31	5	36	36	-
Boeing 767-300/-300ER	21	18	△3	18	-	20	18	△2
Boeing 767-300F/-300BCF	9	9	-	6	3	9	9	-
Airbus A321-200neo	17	22	+5	-	22	17	22	+5
Airbus A321-200	4	4	-	-	4	4	4	-
Airbus A320-200neo	11	11	-	11	-	11	11	-
Airbus A320-200	3	1	△2	-	1	3	0	△3
Boeing 737-800	39	39	-	24	15	39	39	-
Boeing 737-700	5	0	△5	-	-	4	0	△4
De Havilland Canada DASH 8-400	24	24	-	24	-	24	24	-
ANA計	255	244	△11	177	67	241	241	-
Airbus A321-200neoLR	0	1	+1	-	1	0	1	+1
Airbus A320-200neo	3	5	+2	-	5	3	5	+2
Airbus A320-200	35	30	△5	-	30	30	28	△2
Peach Aviation計	38	36	△2	-	36	33	34	+1
グループ計	293	280	△13	177	103	274	275	+1

航空事業以外のセグメント

(億円)	航空関連事業			旅行事業		
	FY2020 第3四半期累計	FY2021 第3四半期累計	前年差	FY2020 第3四半期累計	FY2021 第3四半期累計	前年差
売上高	1,667	1,498	△ 169	361	345	△ 15
営業利益	20	26	+ 6	△ 47	△ 2	+ 44
減価償却費	37	36	△ 0	4	1	△ 3
EBITDA (営業利益+減価償却費)	58	63	+ 5	△ 43	△ 1	+ 41
EBITDAマージン(%)	3.5	4.3	+ 0.8pt	-	-	-

	商社事業			その他		
	FY2020 第3四半期累計	FY2021 第3四半期累計	前年差	FY2020 第3四半期累計	FY2021 第3四半期累計	前年差
売上高	610	614	+ 4	274	276	+ 2
営業利益	△ 30	6	+ 37	5	11	+ 6
減価償却費	10	8	△ 1	2	4	+ 1
EBITDA (営業利益+減価償却費)	△ 20	15	+ 35	7	15	+ 7
EBITDAマージン(%)	-	2.5	-	2.9	5.6	+ 2.7pt

コスト削減策の進捗

	実績 *1	年度見通し *1
	第3四半期 累計	内訳
変動費	2,900億円	2,400億円 生産量の抑制 需要動向に応じて機動的に調整
固定費*2	1,960億円	500億円 自助努力による削減 合計 2,460億円 年度計画 3,150億円
合計	4,860億円	

*1：2019年度実績との比較

*2：雇用調整助成金の受給額を含む

- ◎ 最後に、第3四半期の主な取り組みについてご説明します。
1点目は、コスト削減策の進捗についてです。
- ◎ 第3四半期累計の実績として、2019年度同期に比べて、合計4,860億円を削減しました。自助努力による削減額は、合計2,460億円となり、年度計画として策定した3,150億円の達成に向けて、着実に進捗しています。今後も、事業構造改革の取り組みによる効果を追求しながら、ユニットコストの中期的な低減に向けて、コストマネジメントを強化していきます。
- ◎ 26ページをご覧ください。

転換社債

1. 目的

堅実かつ柔軟な財務運営を実行、アフターコロナの航空市場で競争優位性を維持・向上する

1

事業構造改革の加速に向けた成長投資
(約 500億円)

①新サービスモデル構築のためのデジタル投資
②第3ブランド設立のための設備投資

2

既存債務の償還・返済資金の早期確保
(約 1,000億円)

①2022年満期のCB償還資金(700億円)
②長期債務の返済資金(約300億円)

2. 発行概要

1) 払込日(発行日)	2021年12月10日
2) 償還期日	2031年12月10日(年限10年)
3) 発行総額	1,500億円
4) 利率(クーポン)	0.0%(ゼロクーポン)
5) 転換価額	2,883円(アップ率10.02%)
6) 主な付帯条項	(1) 株価が転換価額の120%より高い水準で一定期間推移した場合、発行日から3年後以降、当社がCBを繰上償還できる条項(ソフトコール条項) (2) 発行日から7年後に、CB所有者が繰上償還を請求できる条項(プット条項)
7) 潜在株式数の割合	11.06%(=潜在株式数÷発行済株式総数(自己株式を除く)※) ※2021年9月30日現在

©ANAHD2022

26

- ◎ 2点目は、昨年12月に実施した転換社債の発行についてです。
- ◎ コロナの影響が長引く中でも、堅実かつ柔軟な財務運営を実行しながら、アフターコロナのグローバル航空市場で、競争優位性を維持・向上することを目的として、昨年12月に、総額1,500億円の転換社債を発行しました。
- ◎ 資金使途として、事業構造改革の加速に向けた成長投資に約500億円、既存債務の償還や返済に約1,000億円を充当します。
- ◎ 今後株価が上昇した局面では、株式への転換によって資本増強が可能となり、財務基盤の強化にも繋がると考えています。
発行概要については下段をご参照ください。
- ◎ 最後になりますが、1月18日に、「2022年度 ANAグループ航空輸送事業計画」を発表しました。今回から、ANAとPeachが共同で事業計画を策定しており、コロナ禍における需要トレンドと、両ブランドの持つ特性とのベストミックスを追求し、グループ全体で収益の最大化を目指す方針です。
引き続き、アフターコロナを見据えた変革を進めながら、いち早く業績の改善につなげられるよう、グループ一丸となって、事業構造改革に取り組んでまいります。
- ◎ 以上で、私からの説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

(Memo)

(Memo)

(Memo)

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
 私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます
 私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、お客様満足と価値創造で
 世界のリーディングエアライングループを目指します

グループ行動指針
(ANA's Way)

私たちは「あんしん、あつたか、あかるく元気！」に、次のように行動します。

1. 安全 (Safety)
安全こそ経営の基盤、守り続けます。
2. お客様視点 (Customer Orientation)
常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
3. 社会への責任 (Social Responsibility)
誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
4. チームスピリット (Team Spirit)
多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
5. 努力と挑戦 (Endeavor)
グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、感染症の継続・拡大、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 ➡ I R 資料室 ➡ 決算説明会資料

ANAホールディングス㈱ グループ経理・財務室 財務企画・I R部

Eメール : ir@anahd.co.jp